

一般社団法人日本小児アレルギー学会
会員各位

平素よりのご高配に感謝申し上げます。

本日は「喘息発作の全国サーベイランスを介した呼吸器感染症の早期検出と流行把握の研究」の定点施設となっただけの医療機関を募集させていただきたく、ここでご案内するご許可を得ました。

2015年、全国で急性弛緩性麻痺と喘息発作が急増しました。日本小児アレルギー学会では全国の会員157施設を対象とした後方視的な喘息発作入院数の調査を行い、それがエンテロウイルスD68感染症に起因すること、そして過去も含め同ウイルスの流行と気管支喘息発作の急増に統計学的有意な因果関係にあることを報告しました (Korematsu S et al. *Allergol Int* 2018; 67: 55-60: 別掲)。

ここから、喘息発作入院を前向きにサーベイし、急増した地域でその原因となっている病原体を同定することで、一部の呼吸器感染症の流行を早期に把握できるのではないかと考え、今年度からの4年間、文部科学研究としてのサーベイランスを開始することとしました。

応募いただく定点施設にお願いすることは以下です。

1. 2010年4月～2020年3月までの20歳未満の月別、性別、年齢区分別の喘息発作での入院数、喘息発作によるICU管理数、喘息発作による人工呼吸管理数を後方視的に報告していただきます (なお、2015年の調査にご協力いただいた施設では2015年10月までのデータは当方がもっておりますのでそれ以降のデータで結構です)。
2. 2020年4月からの4年間は、専用のWebsite (現在作成中) に喘息発作入院1例ずつ、性別、年齢区分、喘息の重症度、喘息の長期管理薬、病原体の検出状況を入力していただきます。このWebsiteにて、全国、各都道府県、各施設でのトレンドがすぐに図表で作図できます。過去の同月から急増した地域や、人工呼吸管理を要した喘息発作例が生じ、保険診療としての検査にて病原体が同定できない場合は、川崎医科大学でのマルチプレックスPCR検査を予定してます (この場合の検査料と郵送費は本研究費から支出いたします)。

全国150-200施設を定点としたいと思っております。ご協力いただける場合は、大分大学医学部地域医療・小児科分野のメールアドレス oitaregionalpediatrics@gmail.com までご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。

大分大学、中津市立中津市民病院 是松聖悟.
(2020.07.03)